

シリアの状況は更に混迷を極める中、シリアへの支援を目的に今年3月にサダーカを立ち上げ、様々なイベントを通して募金活動を行ってまいりました。ただ、長く続くこの状況に国際社会も既に暴力を止めるべきを見いだせず、多くの方が「もうこの殺しの連鎖を止めることはできない」とあきらめているようにみえます。サダーカボランティアとともに訪ねたシリア人家庭では、「政府側でも反政府側でもなんでもいいから、とにかくこの殺し合いとシリアの破壊をやめてほしい」という声も聞きました。大統領が悪魔であるのか反政府軍が暴徒と化しているのか、この混沌とした状況でどちらかを悪者に仕立て上げて何もう始まらない気がします。支援も大事ですが、とにかくこの暴力の連鎖が止まるよう、市民の小さな力ではありますが、声を上げていきたいと思っています。引き続き、今シリアの普通の人たちがどんな思いで生活しているのか、等身大の視点でお伝えしていきたいと思っています。Facebook や HP も随時更新していますので、メールマガジンと合わせてご覧いただければ幸いです。

■目次

1. アハバールフロムヨルダン

《ヨルダンからの報告》

- (1) ヨルダンでのシリア人難民の状況と支援活動
 - i) 概況
 - ii) サダーカボランティアによる訪問報告（報告：ボランティア 葉狩真悠子）
 - iii) サダーカの動き
- (2) ヨルダンに生きるシリア人の友人の声（報告：代表 田村雅文）
- (3) 寄付の状況

2. アハバールフロムニッポン

《日本での活動の報告》

- (1) よこはま国際フェスタ ～シリアの日常を伝える～（報告：ボランティア 菅野明夏）
- (2) 協賛参加イベントの報告
 - ～北海道クリスチャンセンターにおけるシリア近況の発表～
 - ～青森でのイベントの報告～
 - ～Hand in Hand! みえの地球市民@三重県へのESDin 三重～

サダーカ代表の田村に加え、9月には南雲千波（サダーカボランティア）、10月には平山恵（サダーカアドバイザー）、葉狩真悠子（サダーカ広報担当）がヨルダンを訪れ、ヨルダンのシリア人難民支援を通して彼らの生の声を聴いてきました。

(1) ヨルダンでのシリア人難民の状況と支援活動

i) 概況

創刊号から4ヶ月、ヨルダン北部には、未だに3ヶ所のキャンプがあります。UNHCR及びJordan Hashimite Charity Organisation (JHCO)の発表によれば、最大のキャンプであるザアタリキャンプ（マフラク市）に、30,000から40,000人が収容されているといわれます。現地報道では劣悪な環境にキャンプから逃げ出す人、あるいは自国へ戻る人もいられる中、UNHCRとJHCOを中心とした支援は継続的に行われています。最近ザアタリキャンプへ入ったサダーカボランティアによれば、八百屋やカフェを営む人も出始めており、シリア人の家族等はキャンプ内外を比較的自由に行き来できるようです。

日本政府は、Japan PlatForm（以下JPF）を通して2億円を拠出することに決定し、サダーカが支援をしてきたヨルダンでもいくつかの日本のNGOが難民キャンプ及び地域での支援を始めています。サダーカは今後、JPFの方々ともコンタクトを取りながら、小規模ではありますが支援を続けていきたいと考えています。

ヨルダンは最高気温が10℃前後、最低気温は5℃程度まで下がり、朝晩は冷え込む季節になっています。石造りの家は底冷えが激しく、アンマン地域のシリア人家庭訪問でも、多くの方々から毛布や冬服、マットレスやヒーターが必要という声が聞こえてきています。

◇引き続きUNや支援の動きについては以下サイトが参考になりますのでご覧ください。

<http://data.unhcr.org/syrianrefugees/regional.php>

ii) ヨルダン訪問報告

報告者：サダーカボランティア 葉狩真悠子

今秋サダーカボランティアの葉狩とアドバイザーの平山がヨルダンを訪問しました。現地では冬に向けての対策が大きな課題になり、多くの国連機関やNGOが対策を始めています。一方で、シリア国内で続く紛争状態を収束させる目処は立っておらず、その根本的な解決に向けての行動の必要性も感じた滞在となりました。

10月29日から11月8日までの約10日間、ヨルダンを訪問しシリア難民の現状を視察してきました。滞在中の10月30日の時点でヨルダンでは60,089人の難民が国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の難民登録を受けていましたが、11月17日現在88,026人と、2週間と少しの間で約2万人の増加がありました。（参考：<http://data.unhcr.org/syrianrefugees/regional.php>）

難民キャンプの入り口ではシリアから避難してきた人々が列をなして並び、またUNHCR前では難民登録のために人々が群れをなすという光景が広がっています。

アンマンのUNHCR事務所で開催されているNGOの活動調整ミーティングに出席した際にも、会議室の窓から外を見ると多くの人々が難民登録を待っているのが見え、NGOを含めた国際社会の支援が日々避難してくる人々の流入に追いつくことは出来るのか、あるいは「難民が発生しない状態にする」という根本的な解決ができない現状がいつまで続くのだろうかと考えると、気が遠くなる様なやるせない様な気持ちになったのが正直なところです。

滞在中は主に東アンマン地域における都市難民への支援、アンマン市内でシリア人医師らが運営している病院や、ヨルダン国内では最大規模のザータリ難民キャンプの視察を行いました。東アンマン地域の都市難民（キャンプではなく都市の中で家などを借りて住んでいる人々）にとっても難民キャンプに暮らす難民にとっても、これからやってくる厳しい冬の寒さへの対策が大きな課題となっています。

ザータリ難民キャンプを訪問した際、マットレスの配布が行われるなど、越冬に向けた準備が見受けられましたが、訪問した11月初頭の時点で既に朝と夜間の冷え込みはかなり厳しく、私達の顔を見ると「ものすごく寒い」ということを身振り手振りで訴えてくる親子もいました。



【写真】平山アドバイザーによるシリア人家庭訪問

サダーカが主要支援先としている東アンマン地域では、越冬支援として小額の寄附（一家族50JD～150JD：約5,700円～17,000円）と冬服（JIM-NET：日本イラク医療支援ネットワークの協力で日本のUNHCRよりボランティアが手荷物で輸送）の寄附を行いました。夏に避難してきた難民の1人は着の身着のままに逃げてきて冬服がなく、また冬服を購入する余裕がないという人もいました。また部屋のガラス窓が壊れていても直す金銭的余裕がなく、そのままになっている家庭もありました。

難民キャンプでの生活と都市部での難民生活、それぞれに異なる課題があります。砂漠地域にあるキャンプにいる難民にとっては砂嵐や風雨にさらされるテントでの暮らし等の厳しい生活環境が大きな課題となり、環境の厳しさ故に難民キャンプから都市部へ「避難」してくる家族もいました。一方、都市部に住む難民の生活はキャンプの生活よりも良いと思われがちですが、必ずしも整っていない住環境の中、食費を抑える為に一日一食にするなど、暖房器具や毛布がない中で寒い冬を迎えています。またヨルダン政府はシリア難民の就学を認めています、家族を支える為に働く子どももいます。また、都市内に点在して住んでいることで人数や生活状況の把握が難しく、援助団体からの支援が届きにくいという点が大きな課題もあります。このように、都市へ移動しても、また新たな課題に直面するという現実があります。サダーカでは今後少なくとも3ヶ月間、ヨルダン人協力者とともに彼らの支援を行う事を計画しています。

今後も皆さんの暖かいご支援の程お願いいたします。

iii) サダーカの動き

創刊号でお伝えしていますとおり、サダーカは国際機関等の支援が行き届きにくい都市部のシリア人の方々への支援を続けています。彼らは、毎月100ヨルダンディナール前後（約12,000円）の家賃を払っており、特に夫を失った家族を中心に支援を続けています。10月下旬から11月にかけて600

ヨルダンディナール(当時レートで66,407円)、12月23日には7家族に家賃の一部及び毛布、ヒーター等を寄付しました(710ヨルダンディナール=約82,634円)。

また、JIM-NETが支援してきたアンマンのアーキラー病院も、シリア人医師たちが病院の一部を借りてシリア人への治療や薬の提供を行っており、今後、サダーカも一緒に支援を続けていきたいと考えています。アーキラー病院では、ザアタリキャンプ等から緊急的にオベが必要なシリア人の方々の搬送なども行っており、病院や妊婦さんで溢れかえるこの病院に国連等の支援が届くまで緊急的な支援も必要と考えています。サダーカが支援をしてきた東アンマン地域には認定NPO法人パレスチナ子どものキャンペーンの方々も支援を実施しており、毛布の調達等においても協力を頂きながら進めています。

(2) ヨルダンに生きるシリア人の友人の声

報告者：代表 田村雅文

僕は戦争を知らない世代として生きてきましたが、まさかこうしてシリアを通して戦争を疑似体験するとは思いませんでした。兵役を逃れて4月から家族と一緒にヨルダンに身を寄せるシリア人の友人の言葉が強く心に残っています。多くのシリア人とヨルダンで話をする中で、聞こえてくるのはアサド政権への批判を一通り終えた後に漏れてくる「もう紛争はたくさんだ」という叫びです。

～ヨルダンへ避難した友人の言葉～

「毎日道端で人が死に、殺し合う。子供たちは戦闘機や銃声を効かずに寝られる日は無いんだ。彼らはどうやって大きくなっていくだろう。この子供たちの今を考えた時、いったいシリア人はどんな種類の自由を望んだというのだろうか？子供たちにとっての自由はこんなふうに獲得できるものじゃない。残念なことに、道端に多くの人が殺されており、死んでいる・・・何のために？今の今まで、シリア、シリア人は何を得た？家を破壊し、歴史を破壊し・・・多くの子供たちはキャンプにいる。多くの人たちがどうか僕らのことを考えてほしい、と思っている。

反政府勢力は次の世代の自由を求めてたかかっている？でも今の子供たちの顔、目をしっかり見つめて欲しい。彼らは、人々が殺し合うのを見ている、道端の血を見ている。学校にも行けないし遊べない。この人殺しの連鎖は彼らの将来の民主主義のため？？違う！多くの子供たちは自由や民主主義なんてどうでもいい。ただこの殺し合いをやめてほしい。

もちろんシリア人の一人として、何か変わるべきだとは思う。でもこういう方法ではない。決してこういう方法ではない、歴史を破壊し、我々の中にある大事なものを破壊して、ではない。多くのシリア人は、シリアのことを思い、守りたいと思っている。自由や民主主義はこんな形では訪れない。シリアのこと、シリアの歴史、子供たちのことを考えてほしい。もう破壊は十分だ。」

ヨルダンに避難した人々から話される内容は、従兄親戚が殺されたり、残された家族が空爆におびえる日々を送っていたりといった生々しい話でしたが、この友人と同様に「殺し合いの状況を終わらせたい」と願う人々の意思と故郷への想いを感じることが出来ます。サダーカではヨルダン国内での支援活動に加え、彼らの意思や想いや穏やかだったシリアの日常を伝える活動の強化と憎悪の連鎖を止める活動(所謂アドボカシー活動)にも力を入れて行くことを決定しました。具体的な活動内容は次号でお伝えできる事と思います。

(3) 寄付の状況

2012年8月から11月までにイベントでの収益や募金を合わせて621,243円の支援金を頂くことができました。イベントでの物販や寄付にて多くの方々からの応援を頂き、この場を借りて心より感謝をお伝えいたします。引き続き、12月31日まで、シリア人の方々か厳しい冬のを乗り越えるための寄付金をお願いしています。皆様のご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

【寄付はこちらから！ゆうちょ銀行、店番号018、口座名：シリアシエンダンタイサダーカ、普通預金、口座番号8909473（ゆうちょ銀行からの送金の場合は89094731）】

2. アハパールフロムニッポン 《日本での活動の報告》



(1) よこはま国際フェスタ ～シリアの日常を伝える～

報告者：サダーカボランティア 菅野明夏

「シリアの日常生活を知ってもらい、シリアに関心をもってもらいたい。」

このような私たちの思いを伝える場として、10月20(土)・21日(日)に開催されたよこはま国際フェスタに出展をさせていただき、多くの方々のご訪問をいただきました。日本在住のシリア人をはじめ多くの方々の協力を得て出展が出来ましたこと、この場を借りてお礼申し上げます。

サダーカは食事販売と展示、2つのブースを出展しました。食販ブースではひよこ豆ペーストの「ホンモス」と、レンズ豆で作る「アダススープ」をヨルダンにて購入した食材を中心に調理・提供し、展示ブースではアレッポ石鹸や雑貨、シリアで撮影された写真やシリア難民支援についてのレポート等を展示しました。

当日は天気にも恵まれ、賑やかなイベント会場にて、多くの来場者の方々へ食事の提供やシリアの文化を伝えることができました。シリアに行かれた事がある来場者の方々とはシリアでの思い出話をしたり、「シリアってどこ？」という方々には、報道される危険なイメージだけではなく展示した写真などを通して私たちがシリアで出会った心豊かな人々のことや、パルミラなどの世界遺産に代表される歴史的な豊かさなど、シリアでの生活を思い出してお話をさせていただきました。また、現地の味を出すことに必死に(?) なりながら食事を作ったりと、久しぶりにシリアづくしの2日間を過ごすことができました。

今後も、このようなイベントをきっかけにシリアを知って頂ける、シリアについて考えて頂けるような活動を行っていかれたらと思っています。

(2) 協賛参加イベントの報告

～北海道クリスチャンセンターにおけるシリア近況の発表～

報告者：平田未季（元シリア青年海外協力隊（17年度1次隊）日本語教師）

11月26日、北海道札幌市のクリスチャンセンターで、シリアの現在の状態を聞き学ぼうという会が開かれ、サダーカ代表田村雅文さんの話を聞くために、北海道クリスチャンセンターに関わる牧師さん、伝導士の方々、またシリアに興味を持つ大学生の方等が集まりました。北海道クリスチャンセンターでは世界の様々な国の状況を知ろうと月に一度例会が行われています。今回は、ニュースで多



【写真】 展示ブースの様子

